

## 1 目的

本視察の目的は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）【商業編】に示されている科目「観光ビジネス」及び「ビジネス・マネジメント」に関する指導の充実に資するものである。主たる産業視察地の「御田町商店街」は、平成23年に空き店舗ゼロを達成した商店街であり、地方圏の人口減少が続く状況下においても、移住希望者が空き物件を待つほどの魅力を持っている。

そこで、両科目の指導に欠かせない「持続可能な相互補完・相互支援関係」の成立過程をまちの担い手に取材し、巡見することによって考察を進めた。

## 2 産業視察の概要と考察

令和3年1月7日（木）

### (1) 日本電産サンキョーオルゴール記念館（長野県諏訪郡下諏訪町5805番地）

日本電産サンキョーオルゴール記念館は、わが国で唯一となるオルゴールメーカーの日本電産サンキョーが運営するオルゴールの博物館である。昭和21年、日本電産サンキョーの前身となる三協精機製作所が下諏訪町で創業し、昭和22年にGHQの依頼でオルゴールづくりを始めた。また、諏訪地域が持つ豊富な水と澄んだ空気は精密機械の製造に適しており、高度経済成長期には「東洋のスイス」と評されていたことを学んだ。



1890年代に最盛期を迎えた  
ディスク・オルゴール

そして、親会社となる日本電産の永守重信会長兼最高経営責任者（CEO）は、昭和48年に日本電産を創業し、世界各国に事業拠点を持つグローバル企業へ一代で育て上げた人物である。平成15年には業績不振の三協精機製作所を買収し、経営を立て直すことに成功した。

元号が令和に改められても、ジヤトコ（本社・静岡県富士市）の買収計画や年収3割増の待遇改善が報じられるように、日本電産が掲げる三大精神の「情熱・熱意・執念」「知的ハードワーキング」「すぐやる、必ずやる、できるまでやる」が今日も実践されている。

### (2) 赤砂崎公園（長野県諏訪郡下諏訪町10944番地）

赤砂崎公園は、下諏訪町が砥川河口の赤砂崎地区で整備を進めてきた複合的な都市公園である。1999年度から「赤砂崎地区（赤砂崎公園・諏訪湖・砥川）をもっともっと楽しく使ってもらおうこと！」を目指して、民間事業者と町職員による「赤砂崎水辺空間活用プロジェクト」を組織し、2020年4月に防災と憩いの場として供用を開始した。「5つの輪（和）」を全体コンセプトとして、それぞれの輪（ゾーン）に特徴的な人が集う場所をつくり、使い方が想像しやすい公園を目指して、コンセプトが可視化されていることを学んだ。

近年は、プロジェクトメンバーで「やりたいこと」「できること」のアイデアを出し合い、4部門（イベント、スポーツ体験、フリマクラフト、飲食）の活動を実践し、持続可能なプロジェクトの仕組みづくりに力を注いでいる。

令和3年1月8日（金）

### (3) 下諏訪町役場（長野県諏訪郡下諏訪町 4613 番地 8）

下諏訪町は、商工業振興施策や移住定住に向けた助成制度に特色が見られる地方公共団体である。当日は、今回の教員産業視察にあたって下諏訪町の窓口として対応していただいた下諏訪町役場産業振興課の戸田様から下諏訪町の「公助」を中心にお話を伺い、まずは商工業の振興に関する施策として、①「空き店舗活性化事業」、②「チャレンジ起業支援事業」をご紹介いただいた。

「空き店舗活性化事業」とは、開業時に既存の空き店舗等をオフィスや店舗として活用する場合に、経常経費となる賃借料（家賃、地代）の一部を補助する制度である。例えば、家賃が毎月5万円の空き店舗を活用した場合は限度額の27万円が交付され、開業時の負担を軽減することができる。また、「チャレンジ起業支援事業」とは、既存の空き店舗等を活用して初めて商業活動を行う場合に、初期投資となる店舗改装や改修に係る経費の一部を補助する制度である。例えば、空き店舗の改装に100万円を要した場合は限度額の45万円が交付され、賑わいと魅力ある商店街の形成につなげることができる。

そして、下諏訪町が特に秀でている移住定住に向けた支援もご紹介いただいた。移住者を支援する「下諏訪町地域おこし協力隊 移住定住チーム」や移住者の顔が見える『信州下諏訪移住 Case Book』に加え、まちの魅力や観光情報、空き家物件情報等を地元住民に聞くことができる交流の場を複数箇所に設けている。その中には、シェアワークスペースやシェアキッチンスペース、入居スペースを備えている施設もあり、下諏訪町には新たな暮らしや仕事の創造に挑戦する環境が整っていることを学んだ。



御田町商店街  
下諏訪移住交流スペース  
Sumeba

### (4) 御田町商店街（長野県諏訪郡下諏訪町 3209 番地 1）

御田町商店街は、明治44年に誕生した全長約200mの商店街である。周辺には生活に必要な機能が凝縮されており、徒歩で生活することができるコンパクトシティが形成されている。また、江戸から京へ続く中山道と江戸から下諏訪へ至る甲州街道が合流する位置にあり、古くからヒト、モノ、カネ、情報が行き交う宿場町として栄えてきた。その歴史は、地元住民が移住者をコミュニティの「よそ者」でなく、イノベーションの「担い手」として迎え入れる姿勢に受け継がれている。

そして、御田町商店街には起業したい若者を全力で応援する組織がある。例えば、御田町商店街の視察を支援していただいたNPO法人「匠の町しもすわ・あきないプロジェクト」である。当日は、専務理事の原様から御田町商店街の「互助」を中心にお話を伺い、御田町で起業したい若者に必要な支援、いわゆる「おせっかい」を担う「みたまちおかみさん会」の存在を教わった。商人として商店街を支えてきたおかみさん会の方々は一瞬たりとも人を見る確かな目を持っており、移住希望者が自ら関係性を築ける人として認められると、初めて空き店舗が紹介される。その真意を確認するため、前述の地域おこし協力隊として活躍し、まちづくりに携わる合同会社「chiko」を設立した今野様からおかみさん会の方々をご紹介いただいたところ、意外なことに移住者から学び続けられる環境に感謝する声が挙がった。一方、移住者の方々も程よい距離感で成功を支援するおかみさん会の存在に感謝しており、両者が御田町の良好なコミュニティづくりに貢献していることを学んだ。

以上のとおり、商人に必要な倫理観を基礎として、固定観念に囚われることなく、互いに高みを目指して認め合える状態にあることが「持続可能な相互補完・相互支援関係」と結論付けられる。